

科目名	イギリス思想史特講	担当者	ササキ タケン 佐々木 健	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	この科目名には、「イギリス」という一定の思想文化圏を表示する地域の名称が入っている。西ヨーロッパの歴史において、概略、他の諸国に先んじて市民革命を成就して近代社会としての地歩を築き、近代資本主義体制を確立し、いち早く「産業革命」を遂行したのはイギリスであった。その17, 18, 19 世紀の期間にイギリスの歴史的基盤のうえで構築され、近代社会の形成・進展を、その内側から推進する観念的な役割を担って登場した哲学思想のシステム。この科目では、この思想システムを「イギリス思想史」の名称で総括している。この科目は、このような意味でのイギリス思想史に関する学問的知見の基礎を習得することを目的とする。		
到達目標	上記のように、17～18 世紀における形成期の「近代」イギリスが産んだ近代哲学・近代思想の世界観的な意味を捉えること、近代社会としての「市民社会」を産み出す役割を思想の次元で担った哲学を出来るだけ正確に、また可能な限り普遍的な問題連関のなかで理解することを、目指したい。同時に、伝統的に「東アジア」に位置する日本において生きる私たちにとって、いわば異質な思想文化をなすイギリス思想・イギリス文化と向き合うことはどのような意味を担うのか、という問題についての自覚を深めたい。		
学修方法	文献（標準的な古典的テキスト）を精読する作業を中心に据える。 基本としては、日本語の文献（翻訳）を講読する。部分的に英文テキストを使う可能性あり。		
スケジュール	基本教材1は前期に、2は後期に、それぞれレポートを提出することが望ましいであろう。 しかし、教材の1と2は、テーマ的に、また概念上、理論上、密接に関連しているため、レポートの内容に関しては、前期レポートは教材1だけ、後期のもは教材2のみを論じなければならない、と固定的に考える必要はない。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	課題となっているテーマについて、的確な記述がなされているかどうか、一つの重要なポイントである。文章による議論の展開の仕方が評価のポイントとなる。
	平常評価	40%	同時に、レポートという文章による作品を完成するまでの努力の過程、基礎作業のプロセスを重視したい。
履修者への要望	基礎的な読解力、問題への学問的関心、概念把握、論理的な記述能力、等を重視する。そしてまた、そのような方面の学力を養ってほしいと願っている。 テキストは途中であきらめずに持続的に、繰り返し読み進むこと。学習用のレジュメ・資料は早い時期に送付します。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： T. ホブズ, J. ロック, D. ヒューム, A. スミス他 教材名： 上記4名他の主要著作の英文テキストの抜粋
	上記の思想家・哲学者の主要な著作を、重要な論点ごとに抜粋した文章を英文で読む。 (刊行されている単行本の原書・翻訳書は分量的に1年間では到底読めない。使用せず) ホブズ『リバイアサン』, ロック『人間悟性論』・『統治論』, ヒューム『人間本性論』, スミス『道徳情操論』などの抜粋テキスト(テキストのファイルは履修者に送付します)。
参考図書	ここでは、とくに掲げない。履修者の関心に応じて、適宜、指示する。
履修上のポイント	基本的なテキストを英語の原文で少しずつ読んでいきます。語学的にも内容的にも、急がずに丹念に読み進めます。基本になるキー・ワードをしっかり押さえ、どのような脈絡で、どんな意味で使用されているかを見極めること。 担当教員が送付する資料をたよりに、17～18世紀のイギリス思想史の展開の脈絡の中で、これらの哲学者の思想と、その継承・発展および相互連関を押さえること。
レポート課題 1	ロックの統治論をアキナスの自然法思想とホブズの政治思想との対比において論じなさい。 留意点 ：レポート前半はロックの思想、後半はアキナスおよびホブズの議論の分析・検討にあてること。アキナスについては、参考にすべき論文を送付します。
レポート課題 2	ロック、ヒューム、スミスの哲学思想に関して、3者の①根本的な人間理解、②哲学の基本志向、③「観念理論」(ロック)、「人間の学」(ヒューム)、「精神哲学」(スミス)の基本構想を検討し、3者が成し遂げた思想の革新の意味を論じなさい。 留意点 ：分析すべきテキストは『人間知性論』、『人間本性論』および『道徳情操論』に限定すること。哲学思想の細かい問題点に立ち入る必要はない。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： A. スミス (佐々木健訳) 教材名： 『哲学・技術・想像力—哲学論文集』勁草書房 1994年 (この教材は、後期の始めに佐々木より履修者に直接送付します。)
	18世紀のスミスが哲学上の主題を論じた小論5篇を取めたもの。1「天文学の歴史」は、古代からニュートンにいたる天文学理論の歴史的展開にそって自然認識の理論的枠組みの転換構造を解明したもの。4「外的諸感官」は、5つの感覚器官の性格と「知覚」の構造を分析したもの。5「模倣的諸技芸」は、3つの芸術ジャンルにそって、Art と Nature, 「模倣」と「完成」との関連を解明したもの。
参考図書	ここでは、とくに掲げない。履修者の関心に応じて、適宜、指示する。
履修上のポイント	「古典経済学」の創始者アダム・スミスという固定観念を捨ててテキストを丹念に読むこと。 小論1は論文集の中で最も重要な論文。なぜスミスはこの論文を書いたか、この中で彼は何を解明しようとしているのか、を問いながら読み進めることが重要。小論4はアリストテレス『靈魂論』(『心について』), G. バークリ『視覚新論』と読み比べると興味深いものがある。小論5は「概要」に記した点と、1つ1つの芸術ジャンルに対するスミスの評価の視点を確認することが重要。
レポート課題 1	次のなかから1題を選び論じなさい。 ①論文「天文学の歴史」の議論の展開について ②論文「外的諸感官」の議論の展開をアリストテレス『靈魂論』との対比で ③論文「模倣的諸技芸」の議論の展開について 留意点 ：「履修上のポイント」に記した点に留意
レポート課題 2	スミスとヒュームの思想を比較検討し、スミスやヒュームをも含めて18世紀イギリス思想を私たち日本人が学ぶ意義は何か、夏目漱石の事例に即して論じなさい。 留意点 ：漱石の事例は、『文学評論』第1章を読み、「イギリス文学」という異質な思想との格闘のあり方を検討してみること。(『文学評論』は、たいていの『漱石全集』に収録。大きな図書館なら貸出し可能。入手不能の場合は佐々木宛連絡願いたい。)